

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	lulu (ルル) ちいさいおうち		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日	～	令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日	～	令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価作成日	令和8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別ニーズに寄り添った1対1の手厚い支援	職員配置において、概ね児童1名に対し職員1名の体制を維持しており、個々の発達段階や特性に合わせたきめ細やかな支援を行っています。洋室、和室、キッチンなど、家庭的な環境を活かした複数のスペースを、お子さんの情緒や活動内容に合わせて使い分けることで、安心感のある環境を提供しています。	スタッフの専門性をさらに高めるため、外部研修等への積極的な参加を促し、個別支援計画の質をより一層向上させるよう、努めます。
2	保護者との密なコミュニケーションと共感的姿勢	日々の連絡帳や送迎時の対話を通じ、お子さんの健康状態や活動の様子を詳細に共有しています。保護者アンケートでも「職員が共感的に支援してくれている」との高い評価をいただいております。保護者様との信頼関係構築を最優先事項として取り組んでいます。	日常の報告に加え、お子さんの成長をより可視化できるよう、写真の活用や個別面談の充実を図り、共通理解をさらに深めていきます。
3	丁寧な事前説明と納得感のある計画策定	契約時の運営規程や支援プログラムの説明、および個別支援計画の作成にあたり、アセスメントを丁寧に実施し、検討するプロセスを大切にしています。	お子さんの最善の利益を考慮し、成長に伴うニーズの変化を迅速に計画に反映できるよう、モニタリングの精度を高めています。

	事業所の弱み(※)だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会・外部機関との交流機会の不足	室内・特定の公園での個別支援が中心となっており、保育所や幼稚園、児童発達支援センター等との連携、および地域住民との交流機会が十分に確保できていませんでした。	公園への外出頻度を増やすとともに、関係機関との情報交換会への参加や、地域の方々を招いたイベントの検討など、お子様が社会に触れる機会を積極的に創出します。
2	家族支援プログラム(ペアトレ等)および保護者同士の交流支援の未実施	個別の相談対応には注力していたものの、事業所主導での研修会(ペアレント・トレーニング等)や、保護者様同士が悩みや情報を共有できる「父母の会」等の場を設けることができていませんでした。	茶話会や子育てに関するミニ勉強会等の企画など、保護者様が孤立せず、互いに支え合えるネットワークづくりを支援できるよう、検討をすすめて参ります。
3	環境整備(クールダウンスペースの有効活用)の課題	職員間でも課題として挙がっていますが、本来クールダウン用として設定しているスペースが一時的な物置状態となっており、お子さんが情緒不安定になった際に即座に活用できる環境が整っていませんでした。	不要な備品の整理と配置の見直しを行い、お子さんがいつでも安心してクールダウンできる、清潔で落ち着いたスペースを常設します。